

佐野藤三郎関係映像の編集計画

〈DVDの見出し〉
 一次 今と昔の亀田郷
 ① 亀田郷の今と昔 ② 亀田郷の地形
 二次 水とのたたかいと人々の願い
 ③ 水害と大河津分水工事 ④ 芦沼での農業 ⑤ 藤三郎や亀田郷の人々の願い
 三次 栗ノ木排水機場と乾田化
 ⑥ 栗ノ木排水機場 ⑦ 乾田化についての藤三郎の感想 ⑧ 乾田化と藤三郎
 ⑨ 新潟地震と親松排水機場 ⑩ 地盤沈下対策と藤三郎 ⑪ 地震復興と藤三郎
 四次 藤三郎の夢とこれからのまちづくり
 ⑫ 中国三江平原の開発 ⑬ ダイヤモンド賞受賞 ⑭ 食の新潟国際賞

一次 今と昔の亀田郷

① 亀田郷の今と昔 (01:35)

もと	時間	テロップ	台詞	備考
佐野藤三郎物語	00:00	東北電力ビッグスワン	<p>歓喜・興奮・感動，4万人の観衆で埋め尽くすスタンド。この巨大なスタジアムは，今や新潟のシンボルとなっている。現在，ビッグスワンの周りには，人工芝の野球場や市民病院，自然公園など大規模な施設が次々と誕生。政令都市新潟の交流ゾーンとして発展を続けている。</p> <p>しかし，鳥屋野潟周辺は亀田郷と呼ばれ，かつては広大な湿田が広がっていた。農家は大変な苦勞をして稲を育て，僅かばかりの収入を得ていたのである。そんな貧しい農村を新潟発展の核にしようと考えた男がいた。</p> <p>佐野藤三郎。亀田郷に生まれた佐野は，世界的視野で新潟の果たす役割を考え，今日の発展の礎を築いた人物である。</p>	
	00:09			
	00:51	映画「芦沼」より		
	01:04 01:35	佐野藤三郎		

② 亀田郷の地形 (02:29)

もと	時間	テロップ	台詞	備考
芦沼からみどりの大地へ	00:00	新潟市亀田郷	<p>新潟市亀田郷。亀田郷は田園型政令指定都市，新潟市のほぼ中央に位置し，昔から農業が盛んです。のどかで明るく，広々とした農地。</p> <p>しかし，この亀田郷は，昔はとても辛い農作業をしていた所でした。空前絶後の重労働，泥田農業が近年まで続きました。田植えも稲刈りも，腰まで泥田に浸かり米作りを行いました。一粒でも多くの米をと，亀田郷の人々は水と戦い，湿った田んぼで働き続けたのです。</p> <p>信濃川，阿賀野川などに囲まれた，面積約1万1千ヘクタールの亀田郷は，その3分の2以上が日本海の海面より低い所に広がる湿った土地です。</p>	タイトル
	00:33	泥田農業		
	01:02	芦沼からみどりの大地へ		
	01:16			

01:34	かつての亀田郷	かつての亀田郷。一面に葦が生える湿地が広がっていたため、芦沼とも呼ばれていました。その湿地は、地図にない湖とも呼ばれ、排水不良の土地が大半でした。農業はもちろん、地域住民にとっても、排水対策は早急に改善しなければならない最重要課題でした。 亀田郷は、信濃川と阿賀野川の二大河川により流された土砂がたまって生まれた大地で、日本海やそこに流れ込む川より低い土地が続きます。そのため、亀田郷の水は川に流れず、湿った土地を形作りました。
02:20	日本海	
02:29		

二次 水とのたたかいと人々の願い

③ 水害と大河津分水工事（02：34）

もと	時間	テロップ	台詞	備考
芦沼 から みど りの 大地 へ	02:30	洪水が恐ろしかった	そのため、亀田郷の人々がもっとも恐れていたのが、洪水による水害です。 大正2年、1913年に木津切れと呼ばれる大水害が発生しました。氾濫した地点には、碑が建ち、恐ろしかった水害を忘れまいとしています。流入した水が排出されないことにも人々は困り果てました。木津切れでは、水に浸かった田畑6千ヘクタール。その年の収穫は大幅に低下したと言われています。 亀田郷の人々は、この木津切れを契機に大正3年1914年に水害予防組合を発足させました。 当時新潟平野の各地は、洪水が続いていました。明治29年1896年には西蒲原郡横田村で、決壊による洪水のため、実に数カ月間も流入した水を排出できないという水害が発生しました。人々は、近隣地域と協力してこれらの実情を国や県に訴え続け対策を求めました。 こうして進められたのが、明治40年1907年から始まった大河津分水路の開削工事です。この事業は、信濃川の水を直接日本海に流すという大工事でした。およそ10kmの分水路を15年かけ、のべ1000万人の労力を費やして完成しました。 また、日本最大級の河口をもつ阿賀野川も堤防のかさ上げなどの河川改修工事を行いました。その工事も昭和8年1933年に完了し、亀田郷の洪水の危険性は大幅に減少しました。	
	02:59	木津切れの状況		
	03:07	旧亀田町の水害状況		
	03:12	流入した水がいつまでも郷内に残った		
	03:38	明治中期の錦絵		
	03:48	水害状況		
	03:59	旧新潟県議会議事堂		
	04:10	大河津分水路工事		
	04:38	大河津分水工		
	04:58 05:04	阿賀野川		

④ 芦沼での農業（01：58）

もと	時間	テロップ	台詞	備考
芦沼 から	05:06 05:22	ジョレン掻き	冬のはじめの亀田郷です。湖や沼、そして川底からの土上げ、ジョレン掻きです。水害から田んぼを守るため、1センチでも高くしたい。肥沃な	

みどりの大地へ	05:56	泥田での田植え	土を得たいとの強い思いから、厳しいジョレン掻きにも耐えたのです。 そして春。今年も辛い田植えが始まります。泥田の中では、自分の体を支えるのがやっとのこと。一株一株植えていきました。 秋、泥田での作業が続きます。ずっしりと重い、水を含んだ稲を刈っていきます。それをきっそうと呼ばれた田舟に乗せ、さらに大型の板あわせに積み替えてハサ場まで運びます。 すべてが人の力、苦勞の連続でした。当時、亀田郷の大地を耕す人たちは、この重労働に不満を言うこともなく、辛い作業を黙々と続けていきました。
	06:22	泥田での稲刈り	
	06:44	ハサ場	
	07:04		

⑤ 藤三郎や亀田郷の人々の願い（01：21）

もと	時間	テロップ	台詞	備考
佐野藤三郎物語	02:33	亀田郷 大正12年(1923)11月25日新潟市中木戸に生まれる	豊かな田園地帯が広がる新潟市郊外の亀田郷。ここに大正12年一人の男子が誕生した。佐野藤三郎、後にこの地域の未来を大きく変えた人物である。藤三郎の家は小作農。地主から土地を借り、わずかばかりの収穫を得、くらしは貧しかった。 当時の亀田郷は、地図にない湖と呼ばれるほど低湿地が続いていた。別名、芦沼。藤三郎の家族も胸まで水に浸かり、大変な苦勞をして米を作っていた。 小学校に入ったある日、出産間近な母が倒れた。過酷な農作業が原因だった。「あの芦沼さえなかったら」、幼い藤三郎にとって、どうにもできない大自然の力。「農家は損だ。なぜこんな思いまでして米を作るんだ」。	
	02:44			
	03:08	地図にない湖		
	03:15	芦沼		
	03:25	母シゲノ 父慶造		
03:36	昭和5年(1929)石山村第三尋常小学校(現在の木戸小学校)に入学			
	03:54			

三次 栗ノ木排水機場と乾田化

⑥ 栗ノ木排水機場（02：15）

もと	時間	テロップ	台詞	備考
芦沼からみどりの大地へ	07:05	栗ノ木排水機場建設風景 土地改良事業それがすべてのはじまりだった	亀田郷の農民の長い願いであった乾いた田んぼを実現させたのが、土地改良事業です。 昭和16年1941年栗ノ木排水機場の建設が始まり、6年後には阿賀野川の改修工事につながっていきました。 大変な苦勞の末、昭和23年1948年待望の栗ノ木排水機場が完成しました。その頃、昭和天皇が栗ノ木排水機場の工事と変わっていく亀田郷をご視察され、人々は勇気づけられました。	
	07:17			
	07:35	栗ノ木排水機場		
	07:49	昭和天皇御視察(昭和23年栗ノ木排水機場)		

08:25	亀田郷土地改良区設立	1秒間に40トンも排水し、完成当時はアジアで一番と言われました。そのため、鳥屋野潟の水位が1m近くも下がり、亀田郷が大変身をするものとなったのです。これをきっかけとして、揚排水路、区画整理など、さらに改善を進める動きが始まりました。 昭和26年には、現在の亀田郷土地改良区が設立されました。 こうして土地改良事業は進められ、揚排水路が次々と整備され、多くの収穫を上げることができるようになりました。
09:20	泥田農業がなくなった	土地改良区発足から約10年経った、昭和35年1960年頃には、かつての泥田農業はほとんどなくなりました。

⑦ 乾田化についての藤三郎の感想（00:57 00:35）

もと	時間	テロップ	台詞	備考
佐野藤三郎インタビュー集	00:27 00:57	栗ノ木排水機場	栗ノ木の排水機ですよ、あの頃は東洋一と言われた。これが23年に動き出したんですよ。ですから23年に動き出して初めて亀田郷の田んぼが太陽のもとに顔を出したということだ。 これはもう地震でたたかれてね。これは今取り壊ししてますけどね。それは、亀田郷の農民が夢中になって飛び上がって喜んだ。 栗ノ木のポンプが動き出す。田んぼが顔を出す。それから耕地整理が始まった。 だから昭和30年に終わったんだけど、8年間で田畑9千ヘクタールの工事をやったんだからね。	スタジオでのインタビュー
	01:10 01:33	亀田郷土地改良区理事長 佐野藤三郎さん	昭和30年に一応この区画ができあがってるんですね。一つの区画が20アール区画になっておる、ですから今では田植えから収穫まで全部機械の一貫作業ができるようになりましたけどね。 これは、我々の祖先が長い間夢を見てきた姿とということが言えると思います。 こうした状態をつくり出したのは、やはり、亀田郷の農民が血と汗と涙でもってこの土地をつくり上げたという、そういう成果でしょうね。	田んぼでのインタビュー

⑧ 乾田化と藤三郎（04:07）

もと	時間	テロップ	台詞	備考
佐野藤三郎物語	10:34 10:42 10:52	亀田郷の排水工事が始まる 映画「芦沼」より 昭和24年（1949）栗ノ	国は戦前から食糧増産のため、亀田郷の排水工事を進めていた。開墾以来300年にわたって苦しめられてきた農家も、この湿田を乾いた田んぼに変えようと立ち上がった。 昭和24年栗ノ木排水機場完成。胸まであった水がみるみるうちに引いて	

		木排水機場完成	いく。そして、ついに土が顔を出した。あの芦沼が、母を苦しめたあの芦沼が。佐野は踊るように喜んだ。亀田郷の大地が輝き始めた瞬間だった。耕地整理が進み、少しずつ乾いた田んぼが生まれ始めた。農家のために、佐野が心に誓った思いが実を結ぼうとしていた。	
11:40		昭和 26 年 (1951) 亀田郷土地改良区が設立	昭和 26 年耕地整理を担った組合は組織変更、ここに亀田郷土地改良区が設立された。佐野は、農家を代表する総代に選ばれ、地元の熱い期待を背負うことになった。	
12:12		昭和 30 年 (1955) 亀田郷土地改良区の理事長に就任	ところが、大きな試練が佐野を襲った。土地改良区は膨大な借金を抱えていたのである。佐野は、強い決意で、亀田郷土地改良区の理事長に就任。32歳の若さだった。今土地改良を途中で止めてしまえば、また芦沼に戻ってしまう。	
12:34		借金 2 4 億円	昭和 30 年、このときの借金は、24 億円、現在の価値で実に 1700 億円もの借金が、佐野の肩に重くのしかかった。	
12:41				12:42 ~ 13:50 のインタビューはカット
13:51		東京・霞ヶ関	2 4 億円もの借金を背負った佐野は、一か八かの大勝負に出た。国と直接交渉するべく、大蔵省へ乗り込んだのだった。ところが、現実はそんなに甘くなかった。何時間も待たされたあげく会ってもくれない。それでも佐野はあきらめなかった。何度も何度も尋ね歩き、窮状を切々と訴えた。「役人の中でも話の分かる者はいるはずだ」、それが佐野の信念だった。佐野の情熱に官僚が動いた。借金返済のプランづくりを大蔵省の役人が直々にしてくれることになったのだ。	
14:10			すぐさま佐野は、東京上野駅前のふたば荘を借り、書類の山と格闘した。力を貸してくれたのは、大蔵省の福島譲二主査だった。佐野は、すててこの姿のまま毎日関係資料に取り組んだ。その甲斐あって土地改良区は窮地を脱した。この時育んだ大蔵人脈が、後に自分を救うことになるとは、佐野はまだ知るよしもない。	
14:51		東京・上野	大仕事を終えた佐野は、亀田郷に帰ってきた。そこにはもう泥の田んぼ	
15:05		後に熊本県知事となる福島譲二大蔵省主査だった	ではなく、見渡す限りの水田が続いていた。黄金色の稲穂が風に揺れていた	
15:50				

⑨ 新潟地震と親松排水機場 (01:38)

もと	時間	テロップ	台詞	備考
芦沼からみり の大地へ	09:22	地盤沈下起きる	こうしておおらかな農業が続くかと思われた頃、思いもよらないことが立て続けに起こりました。	
	09:36	新潟地震発生	一つは、天然ガスの採取などによる地盤沈下です。そして、昭和 39 年 1964 年 6 月 16 日に発生した、マグニチュード 7.5 の新潟地震です。農地や水路、排水機場などの農業関連の被害も甚大でした。亀田郷の排水の要だった、栗ノ木排水機場もこの地震により著しい機能低下に陥りました。	
	10:12	被害状況を訴える佐野藤三郎亀田郷土地改良区理	亀田郷の人々は、国や県に窮状を訴えました。	

	10:21	事長（当時）	そして、排水機場を新たに建設することになりました。それが昭和 43 年 1968 年 1 月に完成した親松排水機場です。ここには、4 台のポンプを設置し、毎秒 60 トンという排水能力をもちました。地震から完成までわずか 4 年という驚異的なスピードで建設され、新潟地震から復興した象徴的施設の一つとなりました。
	10:38	排水機場を新たに建設	
	10:44	親松排水機場完成	
	11:00	排水能力毎秒 60 トン	

⑩ 地盤沈下対策と藤三郎（02：22）

もと	時間	テロップ	台詞	備考
佐野藤三郎物語	16:18	工業化が進み地盤沈下発生	昭和 30 年半ば、新潟市は工業化が進んだ。多くの工場が一斉に地下水をくみ上げ、新潟平野は地盤沈下に苦しむようになった。中でも亀田郷は特に悲惨だった。理由は、独特の地形にあった。亀田郷は、鳥屋野潟を中心にしてお盆のような形をしている。低い所は、大部分が海拔 0 メートル以下の土地であり、ひとたび大雨が降れば大量の水が田んぼに流れ込む。	
	16:30			
	17:07	地盤沈下が進めばさらにポンプが必要に	それを防ぐため、土地改良事業によって多くの排水施設をつくってきた。しかし、地盤沈下が進めば、さらに多くのポンプが必要となるのだ。佐野の行動は素早かった。すぐさま大蔵省、農林省に何度も足を運んだ。	
	17:25	国に何度もおねがいに	「このままでは亀田郷はまた元の芦沼に戻ってしまいます。地域の未来がかかっています。苦しんでいる民衆のために、どうか力を貸してください」、国と直接交渉に臨む佐野、それを突き動かしていたのが、かつて仲間であった思いだった。「自分のために生きるのではなく、苦しんでいる人たちのために生きる」、佐野はその思いを胸に必死に訴えた。佐野の真摯な態度に大蔵省の官僚も徐々に引き込まれていった。そしてついに佐野の信念が官僚に届いた。「役人を批判するだけでは駄目だ。誠心誠意腹を割ってぶつかれば必ずわかってくれる。役人が動かないのは、こちらの誠意が足りないからだ」、それが佐野の信念だった。	
	18:19	誠心誠意腹を割ってぶつかれば必ずわかってくれる	こうしたことがきっかけで、大蔵の若い官僚が佐野のもとを訪ねるようになった。それはいつしか佐野学校と呼ばれるようになった。	
	18:37 18:40	佐野学校		

⑪ 地震復興と藤三郎（01：49）

もと	時間	テロップ	台詞	備考
佐野藤三郎物語	20:40	昭和 39 年 6 月 16 日午後 1 時 1 分 41 秒マグニチュード 7.5 新潟地震	昭和 39 年 6 月 16 日に発生した新潟地震。地震発生直後、堤防の決壊で農地は浸水。至る所から水が噴き出し、土台を失った家が倒れた。佐野は理事長として現場をつぶさに見て回った。そして、全ての状況を把握したとき、突然現場を後にする。「福井へ行って来る。後のことは君らに任せた」、誰もが耳を疑ったが、佐野には考	
	20:52	栗ノ木川の災害現場		
	21:10	福井へ行って来る		

	22:03	地球が動いたんだから根本的に直さんばならん	えがあった。福井は、昭和 23 年大地震に見舞われた。その復旧過程を学ぶことが大切だと考えていたのだ。 「俺がこの現場にいても一作業員に過ぎない。福井での具体的な復旧方法、そして法律に裏打ちされた交渉力をもとに、いかに有利に国と交渉できるか。それを学びに行くのだ」、佐野は福井で、壊れた建物を元通りにするだけでは復旧にならないことを知った。「亀田郷の施設全体がしっかりと機能を取り戻してこそ真の復旧と言えるのだ」「地球が動いたんだから根本的に直さんばならん」
	22:19 22:29	復旧より復興	帰ってきた佐野は県と協力し、機能復旧まで含めた支援を国から取り付けた。「復旧より復興」、今でこそ認知された考え方を、佐野はこのときすでに実践していたのである。

四次 藤三郎の夢とこれからのまちづくり

⑫ 中国三江平原の開発（01:05）

もと	時間	テロップ	台詞	備考
佐野三郎語	30:18	中国	環日本海交流、佐野は中国でそれを実践した。	
	31:01	開発調査のため視察団として三江平原を幾度も訪れる	中国三江平原、ロシアとの国境近くに広がる広大な湿原は、北海道の 8 万 3500 平方キロをしのぐ、10 万 3000 平方キロの広さをもつ。当時人口増加に悩んでいた中国は、来る将来の食糧問題解決にこの大地から生まれる恵を必要としていた。 現場を目の当たりにした佐野は、亀田郷で培った技術を伝えることを決意する。	
	31:23		そして、これこそが世界で新潟が果たす役割なのだと確信した。	

⑬ ダイヤモンド賞受賞（01:45）

もと	時間	テロップ	台詞	備考
佐野三郎語	41:14		新潟市が政令指定都市になるのは、それから 20 年後。 しかし、佐野が提唱した構想は、田園型政令都市として今も受け継がれている。	
	41:34	平成 5 年（1993）第 1 回環日本海新潟賞受賞	佐野のこうした実績が評価され、平成 5 年 3 月環日本海新潟賞を授賞。	
	41:46	平成 6 年（1994）3 月 24 日ダイヤモンド受賞	その翌年には、農林水産大臣から贈られる最高の荣誉ダイヤモンド賞を授与された。長年にわたり土地改良に情熱を捧げた功績が認められてのことだった。	
	42:19	授賞式後くも膜下出血のため宿泊先のホテルで倒れる	破産寸前の土地改良区を 32 歳の若さで引き継ぎ、最高の土地改良区にまで育て上げた、まさにその日。農民の苦しみを和らげ、地域に希望を与えるという使命を終えた時、天は佐野を召し返した。	

42:34	平成 6 年 (1994) 3 月 25 日佐野藤三郎永眠 享年 71	佐野藤三郎永眠。 真っ直ぐな人生だった。亀田郷を愛し、新潟が世界に羽ばたく夢を追い 続けた 70 年の生涯だった。
42:59		

⑭ 食の新潟国際賞 (02:19)

もと	時間	テロップ	台 詞	備 考
佐野藤三郎物語	46:51 47:11 49:10	佐野等三郎祈念第 1 回食 の新潟国際賞表彰式 平成 22 年 10 月 29 日 食の国際賞本賞モンティ・P・ ジョーンズ氏	そして今年 10 月。 佐野藤三郎記念、食の新潟国際賞が創設された。 地球規模で食糧と環境を見つめた佐野イズムを継承する人物に与えられ るこの賞、本賞はアフリカの飢餓を救おうとする研究者に贈られた。 「(Q 佐野藤三郎について。字幕で) 彼は人にインスピレーションを与え る数少ないリーダーだ。私たちの多くは、やりたいことを実現できないの がほとんどだが、彼はリーダーとして目標をもち、それを実現した数少な い人物だ。日本や世界に貢献した数少ないすばらしい人物だ」 すべては芦沼から始まった。どんな逆境に遭っても決してあきらめない。 地域を愛し、国を愛し、そして世界を愛した広い心。佐野を失った今、新 潟は発展を続けているのだろうか。暮らす人に明るい未来があるのだろうか か。今、もう一度思い起こしたい。夢をもつことの意味。佐野が残した未 来絵図は、私たちの明日への指針となる。佐野藤三郎、その生き方が、今 我々に語りかける。未来を変える力は人の心の中にあるのだと。	